



# 重迫撃砲中隊

中隊編集委員

1曹 菅野 拓実  
3曹 大友 康平

## 新年の御挨拶

重迫撃砲中隊長 1等陸尉 村上雄一



中隊の隊員諸官、御家族の皆様並びに関係各位の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中に賜りましたご支援、ご厚情に対して中隊を代表して心より御礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの影響により、訓練、行事等の予定変更や営内者の帰省の制限等、御家族には多くの負担をお掛けしましたが、皆様のご理解とご協力により感染者が発生することなく、隊務に集中することができました。この場をお借りして深く感謝を申し上げます。

本年も任務を完遂し得る強靱な中隊を目指して、厳しい訓練と健康管理を両立しながら日々精進する所存でありますので、引き続き中隊の活動に対するご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

結びに、隊員諸官、御家族並びに関係各位の皆様御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

## 新年のご挨拶

先任上級曹長  
准陸尉 秋葉秀正



新年あけましておめでとうございます。新年を迎え謹んで連隊、中隊の皆様、ご家族皆様のご健勝と御多幸をお祈り申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症対策による業務の大きな変化、その中での災害派遣対処等、めまぐるしく変動する中でも感染防止に努め国民の命と安全を守り部隊等の即応性を維持、確保できたことは精強な部隊であると実感しました。

新年にあたり、引き続き対処方針に基づき感染防止と隊員の身上把握に努め、任務に邁進できるよう、努力していきたいと思っております。

## 年男

### 年男代表



継続は力なり

陸士長 秋元謙佑

今年1月から第2陸曹教育隊に入校するので、そこでしっかり知識を身に付け、「人との繋がり」を大切に、周りを見て助け合いながら行動していけるように頑張ります。そしてそこで学んだ知識、技術を無駄にすることなく中隊、連隊の戦力となるよう全力で教育に励んでいきます。

自分にとって大事な1年になります。立派な陸曹を目指し、後輩隊員の模範になれるように頑張ります。

人生一度きり!



3等陸曹 近野 健一

点滴穿石



3等陸曹 笹原 一将

大器晩成



3等陸曹 田口 雄也

## 新レンジャー隊員 誕生!



初志貫徹

3等陸曹 齋藤 玄



## HM 備えてるんだ クラブ



我が重迫中隊筋トレ部は、今年の新型コロナウイルスの影響による大会中止で、大会に出場が出来ませんでした。しかし、我々は大会が目標ではありません。我々のスローガン「鍛えているのではない、備えているんだ」の言葉を胸に自衛官としての本質に磨きをかけていきたいと思っております。

会長 3等陸曹 小松 健太郎

## 新配置隊員紹介!!

家内安全



1士 八巻 一徳

頑張ります



1士 滝口 真牙

本当本気



1士 齋藤 兆

奮励努力



1士 佐藤 香純

全力投球



2士 橋本 未旬

頑訓1回を1回の頑張りです



2士 齋藤 旺介

猪突猛進



2士 五十嵐 樹

戦力に頑張ります



2士 金子 友莉

体力練成



2士 江口 美咲

日々成長



2士 上田 せいら





# 歩兵 第32聯隊

## 歩兵第32聯隊について調査

「霞城連隊2020」、昨年掲げた連隊の古い言葉。日露戦争以降、数多の困難に對し、その身を挺して戦ってきた山形歩兵第32聯隊、通称「霞城聯隊」、その伝統を引き継ぎ、連隊は各種訓練において任務を完遂する為に練成してきたが、皆さんは歩兵第32聯隊についてどれ程ご存知だろうか。そこで広報室が駐屯地資料館に足を運び、全力を挙げて情報収集し調査を行った。

## 歩兵第32聯隊の発足

当時の日本は明治27年から28年にかけて日清戦争中であり、陸軍の編成は、東京に1コ近衛（このえ）師団（天皇と皇居を警護する部隊）と全国に6コ師団があり全部で7コ師団の編成だった。戦後、国力の増強及び対ロシア政策に伴い、新たに6コ師団が新設された。以前から、東北には仙台市に第2師団があったが、青森県弘前市に第8師団が新たに編成され、その隷下部隊として山形市の霞城公園に歩兵第32聯隊が誕生した。当時、仙台市に駐屯していた歩兵第17聯隊において、山形県出身者の隊員が歩兵第32聯隊の基幹要員となった。隊員たちは仙台市から徒歩行進において関山峠を越え、作並付近の民家に宿営しながら1夜2日かけて山形県に入った。

この歩兵第32聯隊の誘致は、戦時体制下における軍事的な意味のみならず、当時の山形市に多大な経済効果をもたらすこととなり、60数件にもおよぶ聯隊取引業者が営舎周辺に軒を並べ、明治10年代には2万人足らずであった山形市の人口が30年代には倍の4万人まで増加した。2千人の兵士が常駐していた聯隊に、面会等で訪れる人が利用する旅館も多く、また、近隣の商店で記念品を購入したり、写真館で記念撮影を行ったりと街

# 山形の郷土連隊 「第20普通科連隊」のルーツ

## 山形歩兵第32聯隊 通称「霞城聯隊」を大調査

全体の活性化に大いに寄与し、現在の山形市の原型を造ったと言っても過言ではない。

昭和20年終戦に伴い、米軍第11空挺師団の一部が神町に進駐し「キャンブヤンセン」と呼ばれ、昭和31年まで駐留した。同年6月には神町警備隊が発足し、アメリカから基地が返還され、10年あまりの米軍の時代は終わりを告げ神町駐屯地が新たに発足した。12月には青森から第20普通科連隊が神町に移駐し、現在までの65年間にわたり地域とともに歩む郷土部隊としての歩みを重ねてきた。

## 戦時下の歩兵第32聯隊

歩兵第32聯隊は数々の戦役に出征、就中日露戦争においては黒溝台及び奉天会戦、太平洋戦争では沖繩で勇戦敢闘、霞城聯隊として勇名を轟かせた。日露戦争当時、歩兵第32聯隊は弘前第8師団管下に所属しており、明治37年6月、第8師団に對して戦時動員が命ぜられ、同年8月28日よいよ歩兵第32聯隊にも出発命令が下り、9月2日霞城聯隊も戦時編成約3千名は霞城宮門を出発した。

聯隊は満州に出陣し各地を転戦、特に黒溝台での戦闘は旅順攻略戦と共に、日露戦争中の2大激戦となり、正面にあつた歩兵第32聯隊は全滅に近い犠牲を払った。中でも黒溝台戦闘の「蘇麻堡守備」の一戦は激戦中の激戦であり、最も多い犠牲を出しながらも、土壁や家屋を利用し、防御戦闘を展開、防御の利を最大限に發揮し、飽くまで戦闘を継続した。その状況はまさに戦国時代の武士を思わせるような組打ちや一騎討ちの白兵戦となり、多くの武勇談を残した。

その後の奉天会戦においては世界最強の陸軍と言われたロシア軍32万の兵力に對し日本軍25万と差は歴然であったが、全身全霊をかけて戦った日本軍がロシア軍を撃破した。この戦いにおいても奮闘し、全国に名を轟かせた。

現在、霞城公園に爛漫と咲き誇る桜の木は凱旋記念に出征将士と補充隊（新兵を教育訓練する組織）の全員が之しい給与の中から少しずつ寄付したお金で吉野から染井吉野桜の苗木千本を購入し、植えたもの。

昭和20年3月、太平洋戦争に出征していた歩兵第32聯隊は首里戦線の攻防に参加、物量を誇る米軍の凄まじい弾雨下に果敢な肉弾戦闘を展開、てき弾筒で戦車部隊をかく乱、地雷戦術、手榴弾攻撃とあらゆる手段で必死に攻撃を継続し、最後は日本刀と銃剣の連夜の斬込隊の出撃で総攻撃を繰り広げ、2日間にわたる死闘が続いた。この攻撃の激しさは「もう2時間日本軍に攻撃を続けられたら、総退却せざるを得なかった」と後に米軍士官が述懐しているほどだった。

同年6月、沖繩守備軍の玉砕はすでに発表されていたが、32聯隊本部はなお健在であり、米軍の更なる侵攻を徹に警戒し、自動小銃、軽機関銃のほか獲獲兵器もあり、隊員の士気は旺盛な状態を保ち、日本降伏を告げるビラが戦場一帯にばらまかれても、なお斬込み攻撃を続け、最後の最後まで不撓不屈の精神を心に灯し、諦めずに戦った。

※沖繩守備軍の任務は南西諸島を本土



下士官上衣  
肩章の「32」は歩兵第32聯隊を意味している



奉天城を占領し入場式を行った



聯隊旗を掲げ前進する当時の隊員たち

として守りぬくことではなく、出血消耗によって米軍を沖繩に釘付けにし、国体護持・本土決戦に備える事だった。



日露戦争などで銃砲弾で撃ち抜かれたが、沖繩戦が終戦するまで守り抜いた聯隊旗



日露戦争の戦勝を記念して祝賀体操を披露する女子師範生徒



日露戦争に勝利した記念に作成された石版画  
明治37年、仙台へ向け出陣した歩兵第32聯隊

「霞城連隊2020」の由来となった歩兵第32聯隊通称「霞城聯隊」は、数々の困難・難局に身を挺して立ち向かい、その全てにおいて武勲を挙げるとともに、「必勝の信念」「最後まであきらめない不屈の精神」を兼ね備えた日本屈指の精鋭部隊であった。20連隊は「霞城聯隊」の名を受け継ぐ唯一の部隊、地域とともに歩む郷土部隊として、引き続き何事にも真摯な姿勢で任務に邁進し、平素の防衛警備や災害派遣に迅速に対応しつつ、地域の皆様の期待と信頼に応えるべく日々精進して参ります。